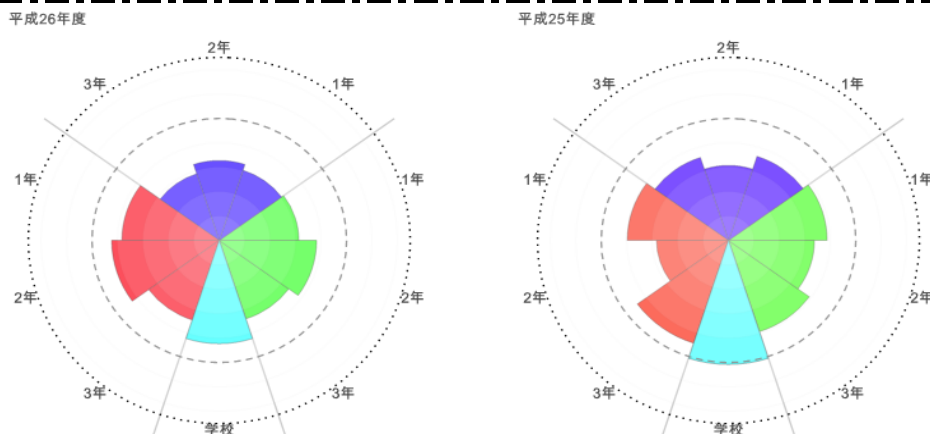


横浜市立上飯田中学校 平成27年度 学力向上アクションプラン

1 学力調査等からの実態把握



(1) 「横浜市学習状況調査」の結果から

- 教科学力が極めて低く、基礎的・基本的な知識の定着に大きな課題が見られる。学習言語の未定着が要因と考えられる。
- 向上心や意欲のある生徒は多いが、取組が成果としてあらわれにくいいため、生徒の学習に対する自信や自尊心が低く、あきらめてしまう生徒や努力が持続しない生徒が多くみられる。
- 学力向上に向けて、より手厚い特別支援教室での個別学習や日本語教室での日本語学習の充実が必要である。

(2) 学校の状況・地域の実態

- 外国籍ならびに外国につながる生徒が約3割在籍し、国籍も10か国に及ぶ。それらの生徒の中で、日本語指導を必要とする生徒が多数いる。
- 国籍にかかわらず、学習につまづきのある生徒や発達障害と思われる生徒が比較的多く在籍しており、学習に対する集中力に欠ける場面がある。
- 地域の方々や保護者は、学校の取組に対し協力的であり、理解がある。しかし、約3割の保護者は、日本語の理解が困難であり、通訳者の支援が必要となる。

2 今後の方向

(1) 最優先課題

- ア 生徒一人ひとりが意欲的かつ落ち着いて学習に取り組めることを目的とした、個々に応じた丁寧できめ細かな生徒指導の継続。
- イ 生徒一人ひとりの自尊心とアイデンティティの確立を目指した、多文化共生を柱とした人権教育の実践。
- ウ 生徒の学習意欲を喚起するわかりやすい授業の実践と、自ら学習を継続的に取り組めるようにするための評価法の研究。

(2) 学力向上重点目標【中期学校経営方針】

- ア 生徒の学習へのつまづきを的確に把握するため、本校生徒の学習状況を様々な資料や情報より分析し、生徒の特質に応じた学習支援法を開発し継続します。
- イ 生徒自らが意欲的に学習に取り組み、課題を解決していこうとする向上心の育成を目指し、言語(母語)支援カリキュラムの開発・実践を推進します。
- ウ 日常的な生徒指導を充実させ、意欲的かつ落ち着いて学習に取り組める学習環境を維持し、市学習状況調査における標準化得点を高めます。
- エ 各教科においてわかりやすい授業の実践と特別支援教室での個別学習と国際教室での日本語学習をより充実させ、基礎・基本の定着を図ります。
- オ 生徒一人ひとりの自尊心とアイデンティティの確立を目指した、多文化共生を柱とした人権教育の実践と充実に努めます。
- カ 3学期制の特質をいかし、生徒一人ひとりの学習への向上心を喚起するため、連絡票を年3回発行し、さらには、ベトナム語版、中国語版の連絡票を作成します。また、学習意欲の継続を図るため、定期テストを年5回実施し、間隔を短くします。